【大正十年四月二十二日第三種郵便物認可】　昭和四年十月十二日　磐城新聞　【土曜日】　第二千六百五十七號　(一)

斷片的な批評

——雄野勇詩集を讀んで——

平田哲

一

この詩集がもつてゐる優れた點はいづれの時代のいかなる作品にも表はれてゐる社會の中の彼自身をよりはつきりと具現してゐるといふことであらう。彼を繞る彼々非彼の世界の姿である。そして尙その優れた點は滅びゆく詩人の石碑でなく絶えず動いてゐる靜を知らぬ魂の燃燒であることである飛躍を續けゆく彼の革命的な生活感情であり世界觀が限りなく展開する歷史であることだ。

二

勿論それらの事實か鼻やらしの子供にもわはるやうに明かに一貫して示されてはゐない。それは詩人の仕事ではなく衆愚の仕事であると考へられるのだから。だがそれだからと云つてこの作品を一つ一つ分け隔てるのは菓子屋の小僧のすべき役目でしかないだらう、過去の分類表に繰入れられるのが詩人の光榮でないかぎり人々は彼に對して彼の方向を見守つてやる義務がある。時代の搖がざる動きを共感し彼を一歩でもその方向へ押しやる努力を惜むことは親切さをもたぬといはれても申譯が立たないだらう。

三

作品を見ると三つに分たれてゐる。そして彼の最も若い時代を示す「顏と樹」に屬する作品は當時（一九二五年）漸く詩壇に勢力を得つゝあつた象徵主義的な短詩運動の影響を極めて明るい健康に取入れてはゐるがグロテスクな感情をさへ交せた夢でしかない。そこにはたゞ凡庸な詩人や夢をむさぼる人々の言ひ得ない感を表現してやつたといふ程度の閃きを見るだけだ（貝殼、蟹、海、喇叭、その他）

四

これらの作品が口にする如さへ嘔吐を促すやうな爛れ現在の詩壇にどんな地位を與へられようとも彼はそんなものを屁とも思はないだらう。むしろ嘲笑しながら突返してやるかも知れない、彼は正當に批判してくれる何物かを信じてゐるとは親切さをもたぬといはれても申譯が立たないだらう。

五

しかもこれらの詩はプロレタリアート詩とはまた緣なきものゝやうである。飽くまでも反逆的な從つて徹底的に赤熱の然も冷靜な鐵の如きイデオロギーはプロレタリアートの心臟である彼はその心臟を突き破つて出る詩を歌ふとき永久に時代を突走るのだ。そして又それは彼を繞げし人の引受ふねばならないものに外ならない。

六

兎に角このし集に對する自分の拙だ獨斷的な毒をも含んだ批評を……然も粗雜に……終へた積りである。この批評の勝手な一家言は許してもらはう。批評の責任を果さんためにそれからこのし集に就いての所謂し人達の批評も既にあつたであらうがそれとは關係もなく書き付けたこの駄文を諸氏よ諒せよ。

七

批評の甘い辛いはどうでもいゝか的を外れてゐるとしたならば筆者の不覺この上もない。

（一九二九・十・七）

死を超ゆる者

小說

三上於菟吉作

（109）

布施平八郎畫

江間先生（四）

青年は眼を輝かして、鶴でもろ〳〵な若い人に逢つたが大ていな惡事はし盡した男だ。

「さうです、私は實際泥棒の經驗を持つて居ります」

「ます〳〵ぶしつけな質問だが、あんたはほんたうに物を盜んだことがあるのか？」

青年の眉目を、一瞬間黃昏の薄闇が罩めた。彼は頸垂れたが。遠い西空の果てにまだ幾らか殘つてゐる夕映を眺めるやうに眼を擧げた。

「私はあすこに集まつて居た人達に自分が泥棒だつたと言ふ事を言つて聞かせたのではなかつたのです子供

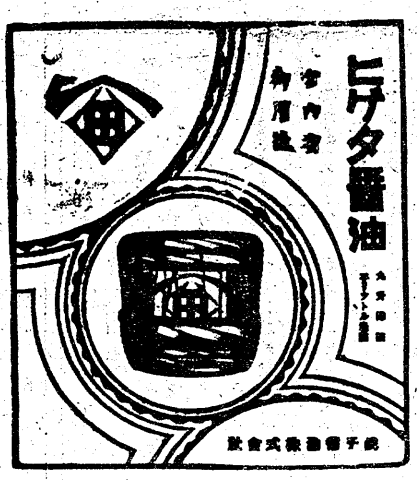
夜間診療

胃腸病
内科
二十二指腸虫病
專門
內科部

痔瘻
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部

松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
話電は
三四三番
サシミ



特約店
平町田町
廣瀨支店
電話五四番

萬屋貨物運輸部
電話二七三番
萬屋與一

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
㋭釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㋭の生命なり

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

清釀造元
世界一吉
石城小名濱町
清水屋
銘酒
各炭鑛御用達
小野晋平
電話六番

內科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鳳坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

新築落成
耳、鼻、咽喉科（專門）
氣管食道科
平町南町（產診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
平町五丁目角
大販賣店
山野邊藥局

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士　海津俊一
X光線科
木下寅一
院長　新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町電四七五

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地がありますが、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり戴けば社員がた伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾　市原三三男
皮膚病
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）　電話一一四番

休刊　大祭第二、第四日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料（一行半號指定廿號增）
發行兼編輯人　連沼龍輔
印刷人　磐城新聞社
發行所　磐城平町四町目拾六番地

改正　片濱乘合自動車時間表

江名發	平着
五時三十分	六時三十分
七時三十分	九時
八時	十時
十時	十二時
十二時五十分	一時半
二時	三時
四時三十分	五時二十分
五時四十分	六時二十分

鈴木片濱自動車部
電話二一七番
車庫呼出　電話一四二

平發	江名着
五時三十分	四丁目和泉屋前
七時三十分	新川町車庫
九時二十分	江名のりば
十一時五分	沖見屋
一時	電話十四番
三時三十分	松屋
四時十分	
五時四十分	
六時二十分	

觀音樣の御堂で母子を救つた感心な少女
——母が臨終に遺言の赤木綿一反の贈り物——
平署に届いた不審小包と涙の手紙

平警察署の受付口に十一日朝一個の謎の小包が配達された、係りのお歴々が立會ひの上開封して見ると赤木綿一反に女文字の手紙が添ひてある差出人は秋田縣松本シゲ(三三)といふ女で手紙の內容を見ると——此の女は今より十年前父母と共に三人暮らしをして居たが家が貧しいため父は出稼ぎして來ると稱して

家出 せるまゝ行方をくらました、驚いた母子は父の歸りを待つてゐたが何時までたつても歸宅せずそれに風の便りに聞けば父は石城郡の某炭礦に居るとのことを聞いた母子は夫戀し父懷しの情に燃ね草の根分けても捜し出さんと乞食となつて漸へ平町に至つた處父はすでに炭礦を去り仙臺邊に赴いたと聞かされたので更らに仙臺に行つた處尋ねる父は見當らず前途を悲觀して市內の某觀音堂に於て母子が首にひもをまき手拭をもつて目隱しをなし自殺をせんとした切那一人の錦紗の着物を着た少女が現れ自殺を押止め現金十五圓と衣類を惠み郷里に歸つて父の歸りを待つたらよからうとの話なので歸宅して居たがその內母はふとした

風邪 がもとに死亡しその臨終の際母は赤木綿一反を取出してこれを仙臺で助けて呉れたお孃さんにお禮として差上げてくれと遺言して死んで行つたのでシゲは直に家をたゝみ名も知らぬ助けの神なるお孃さんを尋ねるため八幡樣參りの姿となり各地を探し廻つたがその恩人の行方が判らないので困つてゐると母子が惠まれた衣類の袂に石城郡平町片倉製絲場佐藤トメ子と書いた紙片があり之れは此の人に相違ないから

何卒 警察の役人樣の手で搜し出して母が臨終に遺言した此の赤木綿一反を御禮の印まで手渡して貰ひたいと云ふにあるが世智辛らい此の頃之れはまた珍らしい物語りとして係官もホロりとさせられてゐる

豫算の緊縮問題で 平町會一ト破亂
特別戶數割と共に 廿五日町會招集

平町では本年度下半期特別稅戶數割の賦課額を決定するためそれ〴〵調査をなして居るが近く大体終了するので今月下旬の二十五日頃に町會を招集し賦課額を決定することになつた、尙ほ當日の町會には緊縮方針に依る實行豫算の編成に付いて町會の承認を求める筈であるが此實行豫算は町會の承認を求めずに行つたものであり何故に町會を招集しなかつたかについて町民に種々論議されて居ることゝて當日の町會は頗る注目されて居るが本年度下半期特別稅戶數割の附加額は大体前期の率と大差なく附加さるゝものと見られてゐる

植田晩秋繭
下押の摸樣

植田町晩秋繭市况は同市場揚振るはず山す、片倉、石川、岡谷その他問屋出張所を設けて買入に奔走されてゐるが出盛りも終り昨日よりは下押の模樣で同町では最高は岡谷が買ゐほり買止めた八日

岡谷館は
高値　七圓五十錢
安値　六圓十錢
馴　七圓卄錢

石川組は
高値　七圓卄錢
安値　六圓
馴　六圓七十錢

勿來市場は
高値　七圓二十錢
安値　五圓五十錢
馴　六圓四十錢

いづれも下押と品薄で勿來市場等岡谷館出張所の影響あり植田市况も相當打擊があつた勿來市場は本月十五六日の頃閉鎖する筈である

第八回郡下少年庭球大會出場選手

	小川小學校	澤渡小學校	好間小學校	平第一校	赤井第二	湯本小學校
後衛	菅波六郎	草野正信	大友孝	原野正雄	阿部寅雄	加藤定吉
前衛	草野正雄	草野正朗	山口二郎	古畑博	菅原清松	江尻惠一
後衛	松本榮二	佐藤正年	塚本茂	眞田朝明	蔦金七	邊見正春
前衛	西山嚴	草野正人	吉田作美	助川登	高橋大四郎	遠藤寧

雪辱の氣に燃ゆる 郡下少年庭球大會
いよ〳〵十三日元平商校で 榮冠は何軍へ

本社主催第八回石城郡下少年庭球大會は既報の如くいよ〳〵來る十三日(日曜日)午前八時より元平商株學校庭に於て盛大に開くことゝなつた出場學校は

小川、澤渡、好間、平第一、赤井第二、湯本

六校にして競技は定刻本會顧問たる木村磐女校長の開辭に次ぎ後援平庭球倶樂部幹部の鈴木、奥津、吉田、根本の諸氏より競技上の注意あり直ちに競技に移ることゝなつた、而して昨年大會に於て初陣の澤渡校が常勝軍好間、平、小川の雄を見事に一蹴し優勝の榮冠を得た大番狂はせを演じ雪辱に燃ゆる各校軍は連日火の出る樣な活練習をつゞけて今や優劣なき實力を得てゐる今年の大會は果して何れが榮冠を得るや容易に豫斷を許さざるものあり人氣の焦點となつてゐるから當日の盛况期して待つべきものがあろう。

四倉のチブス 猖獗
八名を隔離

石城郡四倉町には最近腸チブス猖獗し現在隔離病舍に收容された者は十數名の多きに達して居る而も益々蔓延の兆があるので四倉町役場では四倉署と協力して豫防に努めてゐるが、八日にチブスと確定し隔離された者は左記七名でありかくの如くチブス患者が續發した事は未だ曾てない事なので町民はチブスの猖獗に戰々恟々として居る

▲四倉町新[illegible]本新次郎([illegible]四)▲同町松本豊吉(一九)▲同町本多增藏(八)▲同町本多ナカ(三)▲同町鈴木キン(七七)▲同町小港シゲ(二五)▲同町松崎ヨウ(七)

植田聯合青年
教化緊縮を開く

石城郡第一方部即ち植田町外一町八ケ村聯合青年團幹部大會は來る十四日午前十時より植田小學校に開催されるが團員の意見發表の後は同校內に縣社會課主催の教化緊縮講演會があるので一同聽講の筈

石城郡下の晩秋繭 意外の豊饒
茲一週間で最盛期 養蠶家惠美壽顏

本郡下の晩秋繭は早場縣北並に濱通り地方を魁として出廻り初め茲一週間で最盛期となるが今年は飼育期から上簇期にかけ雨天續きであつた爲品質や收量につき各方面から懸念されてゐたがその狀况につき縣蠶系課では次の如く觀測してゐる

晩秋蠶の飼育日數は普通三十日位とされてゐるが今年は雨天續きのため平均三十四、五日宛かかり四、五日遲れた、その繭質等は大部分出廻つてからでなければ判らないが昨今各地に出廻つてゐる取引値段から見ると全國各地の取引値段と殆んで變りなく、從つて相當の繭質と思はれる、次に收量の點は桑等が頗る繁茂して豊富だつたに拘はらず、盛食期に於いて一貫目五十錢以上の高値を現した事等を見るとき、如何に飼育の最多く且つ喰込みのよいことが窺はれるために豫想外の豊繭を得ることを確實と思ふ

病に打ち克つ者
醫學士 △○生

古人も病氣は氣を病むのだといつてるがそれは今日にたいても合理的の言である、病氣とはよく名つけたもので、全く病と氣との關係は密接なものである、氣とは矢張り心である、精神であるもつと進んでいへば靈のはたらきである、元來人間は肉體と精神とから出來てゐるからその相關の如く病と氣との相關も然るのである、故にみだりに悲觀すれば病氣のためにならない樂觀的の人に病氣は少くよし罹つたにしても治癒が容易であるけれど、悲觀しやすい人はどうしても癒りがウトい、これは事實であつて然もその理由は科學的に說明も可能であるから疑ひを容れぬことである

◇

有名な生理學者、露國のパウロウは實驗に依つてその正確さを發表したこともある、犬などの動物に對し非常な美味を見せつけ、その食慾をウンと活動させてからこれを與へると消化も速く攝取も良好であるが、そうした理由は生物に植物神經、一名生活神經といふものがあり、この神經は意識の命令に從ふものではなく、即ち任意に活動し得るものではなくて、自然作用で機械的に、はたらくものである、たとへば吾人が胃液を多量に分泌せしめやうとしても、これを分泌せしむるものは植物神經であるから、植物神經が自然的に活動するを待つより外に致し方がない

◇

さあ然らば、何うしてその厄介な植物神經なるものをして、自己に有利に活動せしめやうか、理不盡な藪から棒の命令には、到底從順でありさうもない、が併しそこが人間だ、そこに手あら手洗鉢といふことがある、やりようによつては無心な彼れと雖も動き出さざるを得ない

◇

ね君、そこで氣といふものゝ必要を發見して來る、孟子や告子のいふ氣が我輩の考へてゐる氣と同一であるか否やは暫らく措き、兎に角自ら氣を病んで、こんな病氣に罹つては大へんだとも癒るまいと、悲觀するやうな人に對しては植物神經は僕不關焉で容易に援兵を出して呉れないが、ナニ是れ式の疾患何かあらん、今に屹度癒ると樂觀するような人、又ヨシ癒らんで斃るゝと、もどうせ一度は誰も死ぬ天命を待たん哉と、樂天的に悟入すような、人であるならば、植物神經は俄に援軍を催して、その人の病を救ふに至る、これは同氏の實驗でなくとも我々の經驗が雄辯に物語つてゐることだ、殊に肺病患者にそれが著しい

◇

斷つて置くが、植物神經のはたらきは、單に胃腸液の分泌だけではない、生殖機能の調節、あらゆる害物の防禦から殆んど全身擁護のはたらきを有するものである、この貴重なものを善導し利用し得ると得ざるとは、吾人の氣の持ち方一ツであると言つてもいゝ

◇

豫防注射の如きも、これを馬鹿にして掛かるか、又はいやがるのを無理にやるようでは利き目が薄いが氣持よくその效を確信してすれば必ずそれだけの利き目はある、氣は不思議に效果を顯するもので、私は曾て高松の叔父が危篤の電報に接した時、特急で三百餘里を突破し、死に目に逢つた叔父は脈もなくてゐたが嬉しがつて莞爾として五分間後に瞑目した、枕頭の醫士も、よく持つたものだと言ひ合つたことがある

山田技手が來郡し 平、小鐵の實測
自動車馬車の狀況も 關係地元躍氣

石城郡小名濱町では商港が緊縮となり痛棒を受けたので平、小鐵道だけは既定計劃を遂行する樣にと全町をあげて猛運動を開始したが八日突如鐵道省計劃課から山田技手が來郡し平、湯本小名濱町方面に於ける自動車其他車馬の交通狀况について詳細なる調査をなし九日歸省したが此調査のため技手が來平した事は平、小鐵道工事着手の前提とも目られ小名濱町では更に猛烈な運動をなす由である

おん出た嫁の 兒が問題
認知の紛擾中

石城郡勿來町大字酒井字竹ノ內農渡邊六之助妹キミ子(一九)は昨年十二月中同町字外城の平山信次郎長男正一(二三)の許に嫁したが僅七十五日程で家庭の不和から實家に歸つて居た處十月七日に男子を分娩したのでキミ方に於ては當然正一の子として認知方を請求したが正一の方では日が少し早いからとてこれを拒み紛爭中

平局の貯金
拂戾しが多い 減つて行く

平郵便局の九月中にける貯金その他の取扱高を見るに領金高は十六萬千五百四十四圓七十錢で昨年の同月に比し四萬二千[illegible]圓の減少を來して居るこれは石城地方の財界が昨年に比し非常に安定した結果であるが拂戾しを見ると十三萬五千八百十五圓八十錢で前年同月より三萬圓近くも增加を示して居る緊縮〳〵が盛んに宣傳されてゐる今日預けより拂戾しが增加するとは全く解せないことだと局員も不思議がつて居るがこれはやはり不況の結果によるものと見られて居る

郵便局長會
けふ平第一校で

石城、双葉、相馬の濱三郡三等郵便局長會議は十一日午前十時より平第一小學校に於て開き仙臺遞信局長香西俊雄氏以下出席した

濱三刑事會議
けふ平署に開く

濱三郡各警察署の刑事會議は十一日午前十時より平署に於て開いたが縣刑事課から菊地警部補臨席した

石城米漸騰
米穀商組合も値上協議 稻作悲觀が影響

石城郡地方の稻作は增收豊作を傳へられたのもほんの僅かの間で二百二十日以後の大荒れから平年作を豫想されさらに最近の調査では減收確實を豫想される事となつた農家では增收を豫想し米價が低落してゐる際に持米を手放してしまつた爲め昨今は米不足を告げ平町等には地方米は僅かで殆んど全部は移入米が供給されてゐる有樣であるが此の米不足は石城郡地方のみでなく相場の昂騰を見越して賣惜しみをする者も出來たゝめ中央市場は法外もない高値を示して來たが平町米穀商組合では近く一斤上二十四錢を一錢値上げする樣協議中との事であるが何れにしても今秋の收穫が減收確實と傳へられてゐるために地方米は漸次昂騰するものと豫想されてゐる

磐新塔

▲石城郡川部村大字小川の山奥に炭燒きを爲して居る數人の女が田人村大字方面に於て、去る八日作業中の處天氣晴朗にして風なきに宛ら大風の吹き來るが如きゴウ〳〵と云ふ音が四方に聞こゆるので何氣なく其方を目るさ二升樽の太さで長さ二丈餘もあるかと思はれる大蛇が現れたので大いに驚き、其儘逃げ歸つたが由來同地方は大蛇の棲む地として傳說に富める蛇塚さへある事とて青年達は大蛇狩をやる。

營業部員

年齡二十二歲以上、身体強健にして新聞業務に趣味を有する眞面目なる營業部員一名を募集す希望者は履歷書持參本人午前中來社あれ、給料その他委細面談

記者募集

中學校三學年修業程度の學力あり眞面目にして身体强健なる青年記者二名を募集す(但し平町在住者に限る、保證人を要す)希望者履歷書持參本人午前中へ來社あれ委細面談 電話書信の交涉絕對謝絕

磐城新聞社

愈々御待兼ねの
浪界日本第一の人氣者
篠田實師大一行
十月十四日(一日限り絕對日延なし)
△當地石之巻港乘込に付町廻なし
午後五時花火合圖開場
聚樂館 電話四七〇番
實會一同

營業種は 石炭 コークス 玉炭
磐城第一の石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入 壹俵 金 六十五錢
◎日本デ一番評番ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス 壹俵 金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ〇ツノ玉炭
一、玉炭 大箱壹箱 金 貳 圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前 (ツ) **阿部石炭商店** 電話二三七番

緊縮と輸入防遏
純國產品で正確堅牢なる
セイコー腕時計を
皆樣へ切に御薦め致します
◎宣傳の爲め抽籤特賣
一等 復興債券(額面百圓) 六十本
二等 蓄音器(三笠號市價七十五圓) 百二十本
三等 置時計(八日町マホガミ 市價三十五圓) 三百本
四等 目覺時計(角形市價六圓五十錢) 千三百三十本
五等 机上時計(市價二圓廿錢) 五萬八千三百本
(期日十一月三十日迄空籤なし)
特約店 **大谷時計病院** 電話一九番

靴の御新調は……今
時節柄……空前の安賣
キカイ製靴より安心なる
定評有る大塚の自製靴を
流行新型ゴロフ形
△ボックス革實用 短靴 七、五〇ヨリ 編上靴 九、〇〇ヨリ
△赤革 スポート 短靴 九、〇〇ヨリ 編上靴 一一、〇〇ヨリ
修繕二十四時間內迅速安價
平町田町
大量製產 堅い店 **大塚支店製靴部** 電話七〇二番